

# 処理対象量の見直しについて（平成27年10月）

## 1. 豊島廃棄物等の処理対象量の推計結果

- 平成26年度末の見直しでは、体積は約62万6千 $m^3$ 、重量は約90万7千トンでした。
- 平成27年10月の推計では、廃棄物等については、つぼ掘りは増加したものの、公害等調整委員会が想定していた廃棄物等の底面より浅い部分が多かったことなどから、**処理対象量は、約90万2千トンの見込み**となりました。

【今回の推計結果】（平成27年10月3日現在）

項目	体積(千 $m^3$ )	重量(千トン)	密度(トン/ $m^3$ )
処理対象量	619 (626)	902 (907)	—
廃棄物等	595 (602)	859 (866)	—
処理済量	536	770	1.44 (1.43)
残存量	59	89	1.51 (1.48)
直下汚染土壌	24 (24)	43 (41)	—
処理済量	4	8	1.81 (1.77)
残存量	20	35	—

※括弧内の数字は、前回推計時（平成27年3月現在）のものである。

## 2. 処理期間

- 直島で焼却・溶融対象となる廃棄物等が減り、酸素富化（溶融炉内の酸素濃度を上昇させる取組み）などの処理量アップ対策に努める一方、廃棄物等に占める土壌の割合が高くなることを踏まえ、機械的に計算すると**平成29年3月に廃棄物等の処理が完了する見込み**です。

※今回の調査結果による処理対象量等については、現段階での推計であり、掘削が完了しなければ量は確定しないため、今後増減する可能性があります。

## 3. 今後の対応

- 県では、今後、次のとおり対応します。

- ①引き続き、測量調査を実施し、年度末の残存量について、体積ベースでも把握するなど、より正確な進行管理に努めます。
- ②豊島廃棄物等管理委員会の指導・助言を得ながら処理量アップ対策に努めます。